

# 駒ヶ根市文化財

名称	光前寺の紺紙金字法華經
種別	書籍・典籍
所在地	赤穂 29
所有者	光前寺
説明	<p>紺の料紙(りょうし)に金泥(こんでい)で書かれた法華三部經 10 卷。卷子(かんす)で裝飾經と呼ばれるものである。經卷を納めてある木箱の蓋(ふた)に次の朱書がある</p> <p>(表) 寄進八木原八太輔 光前寺 常住  (裏) 上州箕輪住八木原八太輔寄附之旨適拜闍明王秘穹金文爲法報之  来縁兼應用函蓋作畢冀結妙典之芙臺趺焉</p> <p>光前寺  慶長十八癸丑五月吉日</p> <p>十卷の内訳は  妙法蓮華經卷第一～第八 8 卷  無量義經(むりょうぎきょう)(法華經の開經) 1 卷  觀普賢經(かんふげんきょう)(法華經の結經) 1 卷</p> <p>慶長 18 年(1613)上州箕輪住人である八木原八太輔が光前寺に寄付したもので、光前寺はこれに箱を作って寺の什とした。このように經緯を明らかにしている。</p> <p>この經を、昭和 32 年(1963)『光前寺』発行の折に調査をした金原省吾氏は、これをいわゆる平泉中尊寺經と同類のものであり、平安末期の成立と考察している。巻首・經軸など外装は損われていないが、經文部分は全巻とも徳川期の書写が補入されている。各巻とも見返しの装画は金・銀泥で、毛の細い筆にふくませて流暢(りゅうちょう)に描いており、熟達した技法をうかがわせる。軸幅 25cm、銀罫。法華經は 8 卷(28 品)、これに無量義經・觀普賢經の開結 2 卷を加える。</p>



紺紙金字法華經第 4 卷